

委託調査研究「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備（スキル標準や研修・教育プログラムを活用した人材育成）」シンポジウム



東京医科歯科大学の取組

森田育男

東京医科歯科大学理事
RU推進機構副機構長
委託調査検討委員会委員

平成27年3月14日 東京

研究大学強化促進事業

ヒアリングに至るまで

- ・科研費
- ・論文引用率
- ・ベスト10被引用数
- ・国際共著論文数
- ・産学連携



数値化



27大学、機関



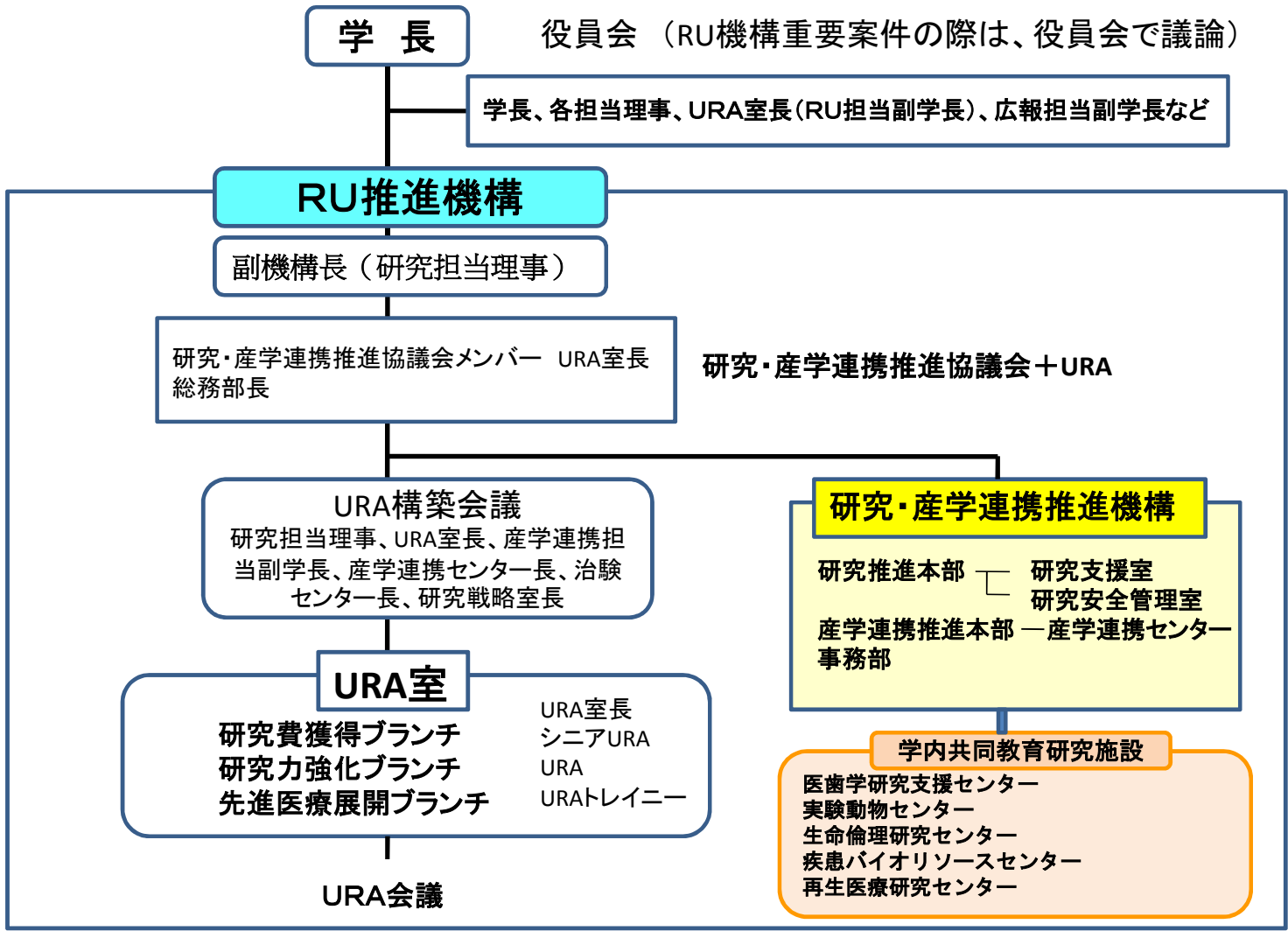
ヒアリング

- ・大学改革
- ・ガバナンス
- ・URA構築

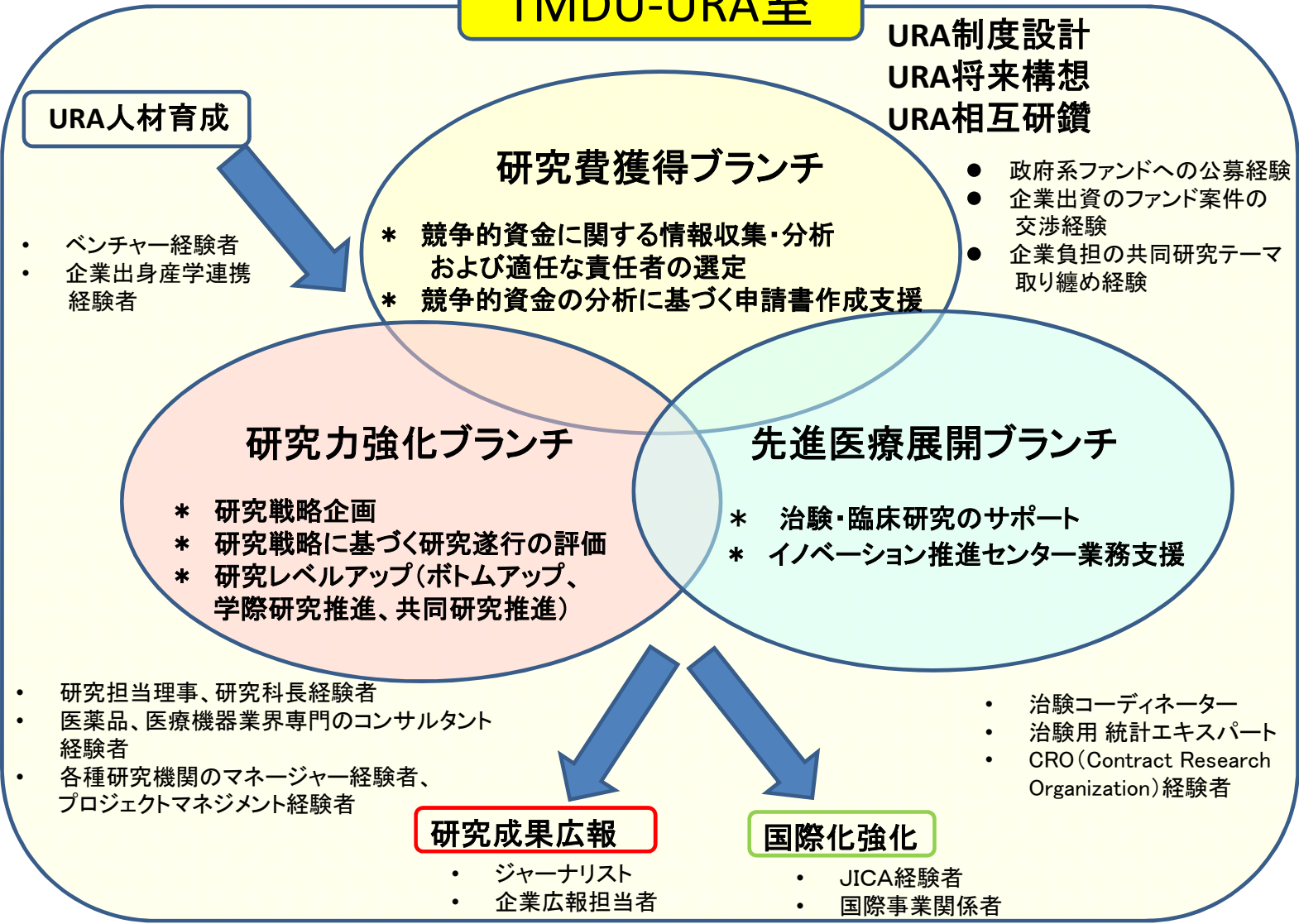
助成対象の大学・機関

10年間

4 億円	東大、京大、東北大、名大
3 億円	筑波大、東京医科歯科大、東京工業大、電気通信大、大阪大、広島大、九州大、奈良先端科学技術大学院大、早稲田大、自然科学研究機構、高エネルギー加速器研究機構、情報・システム研究機構
2 億円	北海道大、豊橋技術科学大、神戸大、岡山大、熊本大、慶応大



TMDU-URA室

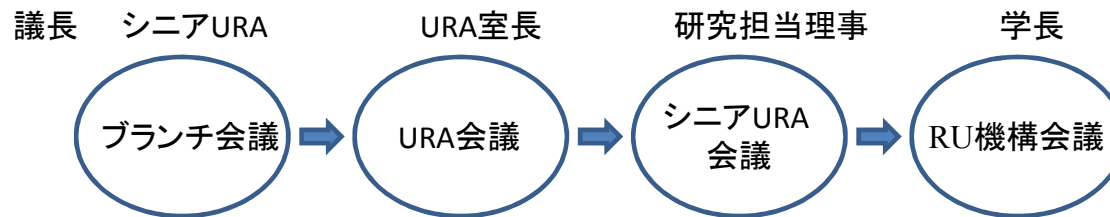


URAの職務環境等の整備

	教員相当	事務職員	昇任条件
シニアURA	各ブランチのエキスパート	部長・課長クラス職員	
URA	多様な職務専門家 専門業務職員	常勤事務職員	3～5年間URA業務を行い、その専門分野で評価指標のもと顕著な業績が認められた場合
URA トレーニー	ポスドク、若手研究者	若手常勤事務職員 非常勤事務職員	一定期間のURA業務を経験し、素養が評価された場合

URA業務評価

具体的評価指標：論文数、I F、1論文あたりの被引用率、科学研究費採択数、採択率、大型予算獲得額、発明届出件数、特許申請数、大学発ベンチャー数、共同研究の件数、共同研究費の総額、企業からの寄附金、研究マテリアルの移転数、コンサルティング契約数、寄附講座・協働講座・企業研究施設数、共同・受託研究活動のアウトカムとしての治験・薬事申請件数、共同・受託研究活動のグローバルアウトカムとしての海外市場での売上、URAシンポジウム、他の大学URAとの連携、URA組織改革提言 など



URA制度設計 (年俸制度、他大学との交流、学内・学外向けシンポジウムの開催、人事労務関連制度の設定など)

URA将来構想 (研究・産学連携推進機構との統合に向けて、RU事業を含めた自立化にむけて)

URA相互研鑽 (スキル向上、他大学への研修、シンポジウム参加、評価に基づく自己検証)

URA広報活動 (ホームページの開設、広報誌によるURA活動情報発信)

医療イノベーション5か年戦略の主な施策(医薬品)



出所:内閣官房 国家戦略室HPより

医学系URAについて

医学系URAは、医学系研究の特殊性、すなわち基礎研究から実用化までにかかる時間の長さ、ヒト臨床試験や治験、要求度の極めて高い安全性と研究倫理など、対象となる研究自体が他の分野と比較して独自性が強く、産学連携の形態も異なることから、研究支援を行う医学系URAもまた独特の知識や経験、スキルを磨くことが求められる。



研究費獲得ブランチ

外部資金獲得の支援

本学研究活動全般の詳細な分析

学内、国内外での共同研究開発の推進支援

科研費、厚労科研費、医療研究開発機構・JST 競争資金等の公的競争資金、産業界の競争資金を含めた外部競争資金に関する情報の収集・分析・情報共有

学内研究者データベースの構築・維持・管理

広報部と連携したRU機構 / URA室の活動のアウトリーチ活動の促進

RU活動に関する国際的プレゼンス強化に向けての企画・運営

研究力強化ブランチ

研究レベルアップ・研究戦略の策定

公的競争資金、産業界の競争資金を含めた外部競争資金の獲得向上を目的とした研究戦略の構築、研究プロジェクトの企画立案、研究計画の作成支援、説明会の開催、申請補助、研究遂行支援、論文作成支援

研究実績の質的・量的な向上を目的としたメンターとしての支援、及び効果的なインセンティブの活用

若手人材・女性研究者育成、国際公募テニュアトラック制度の定着と、テニュアトラック教員の雇用促進支援

先進医療展開ブランチ

治験・臨床試験のサポート

治験・臨床研究支援(各研究センターとの連携強化・課題解決支援)

創薬創出、新規医療機器開発等研究開発の連携強化・支援(各研究センターとの連携強化、課題解決支援)

学内臨床試験管理センターとの情報交換を通じた連携強化・課題解決支援

臨床医、教育医、トランスレーショナルリサーチ医、基礎研究者間の業務の仕分け・シームレスな連携に関する検討・協議

専門研修拠点施設(大学)と連携研修施設(関連病院)の相互利益享受ネットワーク構築に向けた協議

先端医療推進ブランチURAメンバー

1	シニアURA 特任教授	本学大学院教授、附属病院教授(小児科学)
2	URA 特任教授	厚労省医薬食品局課長(出向)
3	URA 特任准教授	製薬企業(臨床開発プロジェクトマネジャー)
4	URA 特任准教授	製薬企業(監査管理者)
5	URA 特任准教授	製薬企業(臨床開発モニター管理者)
6	URA 特任助教	大学院医歯学総合研究科助教
7	URA	他大学病院所属CRC
8	URA	CRO治験受託業務全般

CRE: 治験コーディネーター (clinical research coordinator)

CRCは診察に立ち会いわかりやすい言葉で診察内容を説明し、被験者の複雑な気持ちを受け止め、和らげる等の努力をしています。

CRO: Contract Research Organizationの略で、製薬会社が医薬品開発の為に
行う治験業務(臨床開発)を受託・代行する企業

第1回

medU-net（医学系大学産学連携ネットワーク）
医学系URAについて考える
ためのワーキング

日時 2015年3月2日（月） 10:00～

場所 東京医科歯科大学M&Dタワー11階 大学院講義室 3

1. ワーキング設立の趣旨
2. 医学系URAの機能・役割
3. 医学系URAが直面する業務上の課題
4. 医学系URAのこれから果たす役割
（その他、検討したい議題）
5. 今後の活動について

設置目的

医学系URA制度のあり方や今後の展望について忌憚なく議論できる機会を提供する。そのなかで、医学系URAの課題や解決手法について議論するだけでなく、有識者や産官学ステークホルダーとの意見交換の場を設定するなど、多くの機関が連携すればこそ可能な活動を展開する。

将来的には、医学系URAの日本版モデルを確立して研究支援のあり方に一石を投じる機会にまで発展することを目的とする。

医学系URAの特徴と大学間における差異

医学系URAの特徴

1. 臨床研究
2. 治験
3. 研究不正
4. 生命倫理
5. 利益相反
6. 外部資金
7. 特殊な広報活動
8. 生物多様性
9. コミュニケーション

大学間での差異

1. 産学連携組織
2. 倫理センターと倫理審査
3. トランスレーショナルセンター
4. 事務能力
5. 研究担当理事と診療担当理事
6. 研究戦略部門
7. 知的財産、MTA

- 医学系特有の研究不正、研究倫理の予防策構築への関与
- 製薬企業との契約交渉術（共同研究における知財の取扱等企業の対応についてどのように回答すべきか検討したい）
- AMEDが本格的に稼働し、医学部でのURA人材との連携が必要となることは間違いなく、早急に新しいタイプの人材(いわゆるオールラウンドプレイヤーのような人)を育成する必要があると感じている。
- 知財、産学連携、薬事、臨床開発全般のスキルを有する人材（ピースではなく俯瞰できる人材）を育成する試みが必要だと思う。

研究力強化実現

科学技術イノベーションの創出
先進医療の実現
グローバル人材育成
国際研究拠点形成
個別化医療促進
世界大学ランキングトップ100以内

